

事業所名: まどか保育園

令和5年度
福祉サービス第三者評価
評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

5年 12月 28日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 104-0061

所在地 東京都中央区銀座6-6-1銀座風月堂ビル5

評価機関名 合同会社 福祉経営情報サービス

認証評価機関番号
電話番号 03-5537-7750
代表者氏名 渡邊廣貴

機構 07 - 172



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	川邊明美	福祉	H2001044
	②	赤羽恵	福祉	H1801014
	③	渡邊廣貴	経営	H0403033
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	まどか保育園			
事業所連絡先	〒	208-0004		
	所在地	東京都武蔵村山市本町3-40-3		
	TEL	042-560-1855		
事業所代表者氏名	嶺岡里花子			
契約日	2023年 8月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 8月 7日			
利用者調査結果報告日	2023年 9月 1日			
自己評価の調査票配付日	2023年 8月 7日			
自己評価結果報告日	2023年 9月 1日			
訪問調査日	2023年 9月 5日			
評価合議日	2023年 10月 25日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業評価: 経営層記入事項について、課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り、現状の把握に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

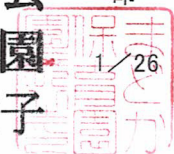
5年 12月 11日

事業者代表者氏名

社会福祉法人 三 宝 会 印

まどか 保 育 園

園 長 嶺岡里花子



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1) 個々の思いを尊重した保育2) 保護者支援。保護者との連携3) 職員の意識向上4) 地域との連携5) 仏教保育の実践
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>他を受け入れる人間力の深さ。 すべてを肯定する強さを備える。</p> <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>様々な経験を積み重ね、質の高い保育を行う事が園の資質になると共に、自身のキャリアアップにつながる事を自覚し向上してほしい。</p>

調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数：134 家庭数：110		
調査方法	・調査項目：東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。 ・事業所への報告：自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。		
利用者総数	134		
利用者家族総数(世帯)	110		
共通評価項目による調査対象者数	110		
共通評価項目による調査の有効回答者数	53		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	48.2		

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の64%、「満足」が30%、「どちらともいえない」が4%、「不満」が2%(1件)であり、回答者の94%が「大変満足」「満足」のいずれかを選択している。
総合感想の自由記述では、「全体的にとても信頼ができて、親の気持ちにも子供の気持ちにも寄り添ってくれて本当に素敵な保育園だと思っています。」「個々の子どもたちの気持ちを尊重する姿勢が、日々見ていて感じられ、安心して保育をお任せすることができています。」「先生は優しい先生ばかりで大変感謝しています。まどか保育園に通って本当に良かったです。」「子供の性格や好きな事等、よく理解してくれてちゃんと対応してくれているのが分かるので安心していきます。」などの回答があり、園や職員を信頼する回答や謝辞が多く見られた。また、「連絡帳での連絡などがしっかりしており、コメントを見るのが楽しみである」旨の回答等、連絡や報告に関しても肯定的、好意的な回答が多かった。意見としては設置しているハンモックの安全性等、安全面を心配する回答等があった。
なお、以下の項目別コメントにある選択肢の回答率については「無回答・非該当」を除いた数値を参照して掲載している。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	51	2	0	0
「はい」の選択は回答の96%であった。「お友達と関わることで、発語が多くなってきた。」など、通園開始後「言葉が増えた」「できることが増えた」という回答が多かった。そのほか、「子供のやりたい事や、したい事を尊重してくれている」「帰宅すると『保育園たのしかった』といつも話してくれます。」など、子どもが園生活を楽しくしていることを伝える回答も複数見られた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	51	2	0	0
「はい」の選択は回答の96%であった。この設問ではお子さんが帰宅後に保育園で習った歌やダンスなどを披露してくれるという旨の回答が複数あった。また、「保育園の遊びを家庭でも実施している」という内容の回答も見られた。そのほか、「公開保育でちゃんと机に座って製作をしている姿にはとても驚きました。」「年間の季節行事など四季をしっかりと感じさせていただき感謝致します。」などの回答があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	4	1	0
「はい」の選択は回答の91%であった。「年齢だけではなく、個々の発達に合わせてくれる。」「連絡帳で食べた量が解ることがとても良い。」などの回答のほか、「保育士体験をしたことで、配慮されていることをより一層感じた」という回答や、「園から教えてもらったレシピを家庭でもつくっている」という回答、「子どもが苦手な食べ物にも挑戦しており、食育が素晴らしい」という回答などがあった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	51	1	0	1
「はい」の選択は回答の98%であった。この設問では「0歳児クラスだが、みんなのイベントに混ぜてもらっている。」「月歴的に無理のない範囲で外遊びなどができてるようで安心している。プランターで野菜を育てていることも凄く良い。」という回答のほか、「行事で社会生活を学ばせてもらっていると思っている。」などの回答があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	2	0	6
「はい」の選択は回答の96%であった。この設問では「助けられている。」という回答のほか、利用した際に「快く対応していただき感謝しています。」という回答、「暖かくご対応していただいております。」「毎回快く引き受けて頂いています。」などの回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	41	12	0	0
「はい」の選択は回答の77%であった。この設問では「門の施錠や、出席などきちんと管理されている。」という回答のほか、園が精一杯の努力をしていることや、保育士も多いので安全に遊ばせてくれていることを伝える回答などがあった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	45	7	0	1
「はい」の選択は回答の87%であった。「今年の運動会の会場・日程アンケートなど、保護者の意見を取り入れて配慮してくれた」という内容の回答のほか、保護者が極力参加できるよう配慮されているという内容の回答、時間帯などの配慮がされていることを伝える回答があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	50	3	0	0
「はい」の選択は回答の94%であった。この設問の自由回答は「仕事の事など心配してくれている。」「いつも親身に聞いてくれる」など、すべての回答が「相談している・出来ている」旨の内容であり、「心強い」という回答も複数あった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	43	8	1	1
「はい」の選択は回答の83%であった。「園内も外をいつもお掃除しているのを見ます。」「先生方が色々工夫されているなど、都度感じます。」など、清掃がされている旨の回答のほか、「トイレが子供達の視線に合わせて可愛いく使いやすい設計されている」という回答があった。一方、「掃除が行き届いているとは思わない」旨の回答もあった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	49	2	0	2
「はい」の選択は回答の96%であった。この設問では、「職員による」という内容の回答のほか、「先生方みなさんが良い方で一生懸命保育してくださり感謝しかありません。」「いつでも優しい先生達だと思います。」「堅苦しくなく、話しやすいです。」などの回答があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	50	2	0	1
「はい」の選択は回答の96%であった。この設問ではお子さんの小さな傷について「報告してもらってます。」「気づいてくれます。」という回答があった。また、「その子にあった対応をもらえる。」という回答や、お子さんの怪我について、「細かく説明して謝罪してくれた」という旨の回答などがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	7	0	8
「はい」の選択は回答の84%であった。この設問では「無回答・非該当」の選択も少なくなかった。自由意見欄には「危なくない程度まで見守ってくれる。」「都度報告してくれる。」「保護者側から問い合わせないと、知らないことが多い。」などの回答があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	3	0	0
「はい」の選択は回答の94%であった。この設問では「本人の意思を尊重している」「いつも子どもの気持ちに寄り添ってくれている」「よく対応してくれる」「のびのびと過ごせている。」などの回答があった。また、「自然体で接してくれるところがとてもありがたく感じている」という内容の回答などがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	45	4	0	4
「はい」の選択は回答の92%であった。この設問ではプライバシーについては特に気にしていないが、何かあっても守ってくれるであろうと、園に信頼を寄せる回答があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	48	3	1	1
「はい」の選択は回答の92%であった。この設問では「状況が想像できる連絡帳でいつも楽しみに読ませてもらっています。」「お知らせにいつも分かりやすく書いてある。」等の回答があり、連絡帳を「楽しみにしている」という回答も複数あった。そのほか、「クラスや縦割りクラスでの目標などは、お便りで伝わりますが、個別での保育内容は知らないです。」という回答もあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	6	0	1
「はい」の選択は回答の88%であった。この設問では「応えようと、努力してくださってるのはとても感じます。」「特に不満に思った事がないが、そのような時は対応してくれると信頼している。」という回答があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	32	7	0	14
「はい」の選択は回答の82%であった。この設問では「無回答・非該当」の選択も多く、自由意見欄には園に伝えることで解決できている旨の回答があった。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	○非該当	
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	○非該当	
	カテゴリ1の講評	
	<p>「学びなおし」や「子ども目線、保護者目線」を今年度のテーマとし職員に周知している</p> <p>年度当初の全体会議では理念や方針、年度の重点課題が職員に周知されている。全体会議はウェブ会議システムを活用して開催し、各クラスや専門の役割毎に方針をまとめて発表がされており、理念や全体方針に沿った部門の方針が共有されている。また、時間をかけ、職員が参画することで方針は浸透し、職員が柔軟かつ臨機応変に考える風土が醸成されている。毎年職員個々が記入する業務目標シートには園目標が記載されており、今年度は「アンラーン・学びほぐし」のほか、「子ども目線、保護者目線」を新たに加えて、職員への浸透が図られている。</p> <p>毎年度の保育方針を職員に伝え、それが浸透している</p> <p>園長以下の職務分担は職務分担表に明記して職員に周知されている。園長は現場の意見を尊重して保育全般を統括している。事業計画書には保育の方針も記載して年度当初に周知されている。子どもが主体的に活動できるよう遊びの環境を見直すことや、子ども・保護者との対話を大切にすること、動物の飼育や植物の栽培を通して生命尊重の心を持つ人間形成に寄与すること、また、縦割りを進めることなどが伝えられている。そのほかに、子ども個々の思いを受け入れ対話を主体としてやりたいことをやらせることなどを伝えてそれが浸透している。</p> <p>経営層と職員の信頼関係が形成され、意思決定のための意見収集が円滑に行われている</p> <p>理事長、園長が職員を厚く信頼し、また、職歴の長い職員も多数在籍しているため、安心して仕事を任せることができている。また、意見を言いやすい風土が醸成されており、理事長、園長、主任が現場の意見を聞いて随時話し合って意思決定を行ない、職員に決定事項の周知がされている。コロナ後は会議体も変更し、リーダー会議や幼児クラス会議、乳児クラス会議は随時招集とし、本園分園会議、ケース会議もケースごとに随時開催がされている。また、報告が主であった会議は取りやめる等、会議の質や意義にも目を向け改善がされている。</p>	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>アンケート等で子どもと保護者の意向を把握し、意向を尊重して保育に活かしている</p> <p>定期的実施する第三者評価の利用者調査結果を保護者意向の把握と改善に活用している。また、例えば、運動会の実施前には、開催に関する保護者の意向をアンケートで把握して開催場所の決定をしたり、毎年のテーマについて親子で考えてもらい、その意見を得て、最終的に子どもの意向を尊重して決定する等、保護者や子どもの意向を把握して行事内容等に反映している。そのほか、運動会や育児講座の実施後にはアンケートを取り、保護者の感想を得るとともに意向を把握しており、内容を工夫して保護者が園の保育をより深く理解することにもつなげている。</p> <p>展開する地域福祉事業の中で地域のニーズを把握し、地域福祉事業を推進している</p> <p>地域福祉の動向については、社協が主催する子ども食堂会議(子ども食堂を運営する事業所が参加する)への参加のほか、地域包括支援センターが主催し園が携わっている「お互い様サロン」、毎月開催される園長会への参加などで情報を得ている。子ども食堂会議では地域家庭の課題などを把握し、子ども食堂でできることを考えて行動しており、貧困家庭の支援居場所づくりなどが展開される等、保育にとどまらず運営している地域福祉事業の中で、広く地域の情報やニーズを収集して地域福祉に貢献している。</p> <p>中長期計画および年度事業計画を策定して進捗を確認し、達成に向けて取り組んでいる</p> <p>中長期計画は2期目の計画が令和4年度から令和6年度にかけて策定されている。計画は設備面や保育環境、労働環境、人事などの項目で立てられており、毎年度進捗状況を確認している。また、例えば、重点的に推進している縦割り保育については複数年度の大まかな目標を立て、遊び、教育、食事の進め方や環境構成などを乳幼児会議で検討し進めている。単年度の事業計画では、年度当初にクラス・部門単位で業務目標を発表し、半期後の全体会議で進捗状況と結果の反省をしており、各クラスで保育実施面に関するテーマを決め、達成に向け取り組んでいる。</p>		

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ-3の講評

半期ごとに職員各自が自己評価を行い、自らの仕事や行動を振り返っている

職員は、保育指針に沿って作成された「保育のチェックリスト」を半期に一度実施して、園や子ども、家族、他の職員、自分自身についての行動や社会人としての行動を振り返っており、自己評価の内容については定期面談で園長からフィードバックしている。そのほか、新人職員が在籍する場合は入職時に延べ1週間程度の研修を実施し、実習のほか、マナーやマニュアルの理解等について学んでもらっている。

研修や定期的な振り返りと話し合いなどによる虐待防止の仕組みが整えられている

苦情解決制度は保護者に周知されている。また、園内には「まどかポスト」を設置して気軽に意見や要望を伝えられるようにしている。意見や要望は対応と結果を細かく記録に残して管理し、「園だより」にはその内容と園の対応等を掲載して保護者に周知している。虐待対応では権利擁護・虐待防止対応規程、マニュアルとガイドラインを整備している。また、毎年研修し、チェックシートにより各自が振り返っている。不適切保育については各クラスで話し合い、その内容を虐待防止委員会が検討しており、組織として防止・予防の仕組みが整備されている。

子ども食堂や「お互い様サロン」など、地域の連携が着実に深められている

子ども食堂(まどか食堂)を運営し、地域の利用も増えている。また、お年寄りと子どもの交流の会である「お互い様サロン」を毎月開催して、歌や季節の行事、体操、脳トレ、お茶、昼食提供等を実施しており、地域の子育て家庭や子ども、近隣のお年寄りの支援をしている。運営にあたり関係機関との連携がされており、子どもと高齢者の交流が生まれ、子どもから高齢者福祉までの地域のネットワークとして着実に広がってきている。また、小学校との連携では近隣小学校の運営委員会に園長が参加して、地域の課題と学校運営の検討および情報交換をしている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>避難訓練や各種の訓練・講習を実施して安全性の向上に取り組んでいる</p> <p>危機管理マニュアルが整備されている。毎月の避難訓練では、プール実施時や午睡の時間帯等のほか、救急要請の訓練を土曜に実施するなど、多様な想定をしており、抜き打ち訓練も実施している。また、避難場所については従来の園駐車場から近隣の庭を借りることにしたなど、一層の安全性確保に向けた改善を実施している。そのほか、不審者対応とSIDS対応訓練、救命救急講習を毎年度実施している。不審者対応は警察署の立ち会いのもとで本園・分園別実施して現場の状況に即した安全確保策を実施している。</p> <p>ヒヤリハットを活用し、事故の予防と未然防止に取り組み成果が出ている</p> <p>事故防止及び事故発生時の対応マニュアルを整備し、定期的に設備・遊具や各年齢児のチェックリストに基づく確認をして安全の確保に努めている。また、危機管理会議では、事故予防について危機意識を高く保つよう職員に呼びかけ、環境を変えるための気づきを促している。ヒヤリハットは収集を強化して事故防止に活かしており、各クラスと栄養、看護で毎月提出されたヒヤリハットを集計し、反省事項や気づきに基づき現状を見直すことを継続している。令和5年度はこれまで病院の受診が1件もないが、これらの取り組みの成果であると園では評価している。</p> <p>ICTを活用しており、情報保護委員を設置し情報を適切に管理できるよう留意している</p> <p>保護者向けアプリは連絡帳や登降園管理、ドキュメンテーション、写真などに活用している。また、電子データはサーバーで管理し、園全体をネットワークでつなぎ情報共有をするとともに、アクセス権を設定して情報の保護をしている。</p> <p>個人情報保護方針は入園のしおりに記載されており、保護者から同意を得ている。また、個人情報保護委員を設置し、掲示物の名前掲示について規程の例外にあたるケースや、保護者向けアプリで公開しているドキュメンテーションのプライバシーに関する検討など、園内の個人情報について問題がないかを確認している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

安定した人員体制を保ち、人材の育成が推進されている

仏教保育の理念を基盤とした保育理念を掲げ職員に周知している。また、職員に期待する姿として、受け入れる保育ができる、主体的な保育ができる、などが挙げられており、内容については会議で話し合うなどで浸透が図られている。

職員の平均勤続年数は18年であり人員は充足している。保育人材が採用難の中で安定した人員体制を保っている。クラスの職員配置では本人の意向に加え、各自に学んでほしい保育内容などを鑑み、スキルの向上を視野に入れ適材適所の配置に取り組んでいる。ベテランが多く、経営層も安心して保育を任せることができている。

職員個々の目標設定や中長期的な視点でのOJT等により個々のスキルを高めている

目標管理を実施しており、毎年度の園目標を踏まえて各自が自己目標と研修計画を立てている。目標は園長との面談後、本人の状況や園の期待なども踏まえて設定されており、半期毎の面談で達成のフォローと振り返りがされている。また、令和4年度からは本人ができていないことを1点だけ「ONE ISSUE」として挙げてもらい毎日実施してもらっているなど、ユニークな取り組みも実施されている。

OJTは入職後3、4年はベテランがついて実施し、慣れてきたら徐々に責任持たせることにしており、中期的な視点を持ってOJTが実施されている。

業務負担の軽減や休暇の取得奨励など、働きやすい職場づくりに取り組んでいる

風通しが良く不満や要望が伝えやすい風土がある。また、役職は固定しておらず若手職員でもキャリアアップの意欲があれば役職への登用もしている。就労環境については業務負担軽減会議を開催し、厚労省のガイドラインに沿って業務負担の軽減に取り組んでいる。令和4年度にはノンコンタクトタイムを設定し、休暇についても同年度に特別休暇(誕生日休暇、健康診断休暇)を設ける等、意欲的に取り組んでいる。また、有給休暇の取得を推奨しており、幼児クラスなど休みにくい部署は主任がカバーして極力取得してもらっている。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) コロナ禍が続き、職員に心身の疲れが生じ、また、保護者支援や個々への対応、記録業務などが増大したことから、コロナ禍の制約された状況下において、保育の質、量を維持する事を課題として、職員が安心して職務に取り組める環境の構築に取り組んだ。 取り組みとして、 ・業務負担軽減会議による、職員意見の反映 ・特別有給の制定(誕生日休暇、健康診断休暇)と取有給消化率の向上に向けた取り組みなどを実施した。 業務負担の軽減については、職員が協力し合いノンコンタクトタイムを作る事で事務作業ができる時間を設けた。また、人員配置の工夫として幼児、乳児にフリー保育として主任と副主任を置く事で問題の改善に努めた。 結果として、 勤務中のノンコンタクトタイムをつくるための協力体制をリーダーが意識する事で残業を減らすことができた。 有休消化率については十分ではなかった。理由としては幼児クラスの縦割り保育の実施が大きく影響していると考えており、今年度は縦割り保育に少しずつ慣れてきたところで有休消化率を上げて行く意向がある。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 コロナ禍という外部環境の大きな変化から組織内部への影響が生じたことから、外部環境を踏まえ「保育の質、量を維持する事」を課題として、達成の障害となる要因に対して解決策を検討し実行している。要因として職員の疲労蓄積と、業務負担を挙げ、その2つの問題を解決すべく、「業務負担軽減会議」により職員意見を収集し、ノンコンタクトタイムの導入や、有給消化のための具体的な施策を実施している。 業務負担軽減会議では、厚労省のガイドラインに沿ってメリットデメリットを検討して一つひとつ実行し、業務効率と休憩についての改善がなされた。特にリーダーが意識して各職員が確実に子どもたちから離れる時間をつくったこと、人員配置としては副主任を置くことで主任がフリーになったことが問題の改善につながった。 業務負担については、今年度、行事開催方法等についても検討を重ねており、また、有給消化率については前年度の結果が十分でなかった事を踏まえて、今年度も継続して取り組み今年度は達成しつつあるなど、課題と実施事項を明確にして結果を振り返り、年度を跨いで問題の解決に取り組んでいる。	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>子ども達の主体的な学びを支援し、自己肯定感を向上させるためには異年齢児からの学びと子ども同士の学びが大切であると考え、保育の質を高めるために幼児クラスを縦割り保育として、個別対応と主体的な育ちの支援、保護者支援をしっかりと行う事を目標として取り組んだ。</p> <p>従来から実施している動物の飼育は、主体性、責任感、生命尊重の意識に寄与する取り組みであるが、縦割り保育では、子どもが自分で決める事を意識した。食事は食べたい時間に食べる、自分で遊びを決める等、自分の意志で動くことができ、自己決定出来るような環境構成を心掛けた。</p> <p>結果として、異年齢で過ごす事で子ども同士の学び合い、助けあい、思いやりの場面が多く見られるようになった。年長児に年少児のお手伝いを依頼することで、食事の準備や清掃・動物飼育の手伝いを異年齢児と一緒にやる姿も増え、特に年長児の意欲的な姿が多く見られた。</p> <p>結果を振り返り、異年齢保育に関する保護者の理解が十分でないため、今年度は保護者に保育を伝える事を目標とした。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>縦割り保育(異年齢保育)は第2期中期計画に記載し、中期の2年目として令和5年度の事業計画に記載されている。詳細の計画明記はないが、初年度の令和4年度は縦割りに慣れる事を主眼とし、令和5年度は年齢別のお遊び、教育、食事をどのように取り入れていくかの検証を幼児会議において進めており、計画的に取り組んでいる。また、実施初年度末に振り返り抽出された課題である保護者の理解促進については、コロナ禍で休止されていた保育士体験を復活させることや連絡アプリの活用により解決に向け取り組んでおり、計画を着実に実行して結果を検証し、PDCAを回して課題の解決が図られている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>リーフレットやウェブページでは園の概要や保育の概要が伝えられている</p> <p>リーフレットには保育目標、年間行事、保育の方針、保育園の一日等を記載しており、保育の方針については乳児クラスと幼児クラス別に丁寧な案内がされている。また、専門講師による運動、リズム、英語について簡単に紹介がされ、園の特長をシンプルに紹介している。</p> <p>園のウェブページでは年齢児別の保育概要を案内し、写真で裏山での活動や飼育しているヤギとのふれあいの場面が紹介され、情報を公開し、保護者向けの各種書類や行事写真等の掲載など、必要な情報を伝えることに取り組んでいる。</p> <p>リーフレットの配布や市の広報紙への掲載等により園の情報を広く地域に周知している</p> <p>リーフレットは市役所や子ども家庭支援センターに置いてもらっている。また、園で実施している子ども食堂の情報は市報に掲載して広報をしており、広く地域に周知がされている。そのほか、武蔵村山市には空き情報を提供し、市では役所内に市内の各保育園の情報を掲示し、また、市のウェブページで紹介をして市民に園の情報が周知されている。園で運営している子ども食堂やお互い様サロンの精力的な取り組みがあり、地域での認識度は高いものと推察された。</p> <p>見学時は園として大切にしていることを保護者等に伝えている</p> <p>見学の希望があったときは、希望日を確認し調整して日程を組んでいる。説明時には保育理念と保育目標、保育の内容等を説明し、子どもを集団で動かさないことや、動物の飼育を行なっていること、里山での遊びを活発に行なっていることなどを伝えており、自然や動物を尊重していることが、園が大切にしている仏教保育に通じるということを保護者等に伝えている。</p>		

		サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応				
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている				評点(〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している				○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている				○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している				○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている				評点(〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している				○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している				○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている				○非該当
サブカテゴリ-2の講評					
<p>入園時は保護者への説明を丁寧に行うことに留意している</p> <p>入園前には園のしおりに沿って重要事項を説明する機会を持っている。説明後はその内容に関し、保護者からの同意を得ている。また、重要事項の説明内容に疑問や不明点があるときなどはその都度質問してもらい、保護者が納得できるよう説明することに留意をしている。保護者との面接では家庭での食事や生活について保護者が記入した書類に基づき聞き取り、保護者の希望や意見などがあつたときには児童票の特記事項に記録している。また、聞き取った情報のうち、園全体での共有が必要な内容は全体会議の中で共有して受け入れの準備を整えている。</p> <p>入園当初は保護者の状況に柔軟に対応して無理なく環境に慣れるよう配慮している</p> <p>入園当初は慣らし保育の期間を設け、初日は保護者と一緒に登園してもらっている。慣らし保育では、保護者の仕事復帰の状況に合わせて、入園前に登園できるよう臨機応変に対応する等、保護者の状況に細やかに配慮して時間や期間を個々に決定している。また、子どもの不安に対しては、なるべく同じ職員が子どもに関われるよう職員のシフトを調整するなど、登園開始当初の時期に子どもと保護者が安心できるよう配慮し、環境を整えて支援している。</p> <p>卒園前から卒園後まで、子どもと保護者に寄り添って支援を継続している</p> <p>途中退園する場合は転園先に連絡を入れたり、その際に得た情報を保護者に伝えるなどの配慮をしている。また、卒園を控えた時期には小学校の授業を落ち着いて受けられるよう、椅子に座って活動する時間を設けたり、小学校での生活のイメージが持てるよう、小学校と連携して校庭で遊ぶ機会を設けるなど、就学の準備をしている。保護者には卒園前に準備しておくこと等を伝えている。</p> <p>卒園後は卒園児を夏祭りに招待したり、夏休みに園に招待して皆で運動遊びを行ったり、バスでバーベキューへ出かけたりして密に交流を持ち支援を継続している。</p>					

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子ども個々の状況を把握し、職員全体で意見を出し合って個々の課題を抽出している</p> <p>個々の子どもの発達の様子や生活状況の変化などは児童票に記録しており、年齢ごとに決められたスパンで発達チェックと記録をしている。また、子どもの情報のほか、保護者支援についても児童票に記録して保護者に対する支援に活かしている。子ども個々の課題については、クラス内だけでなく、他クラスの気づきなども会議の中で話し合い、職員全体で個々の子どもの支援や保護者への支援について情報を共有し抽出している。また、発達が気になる子どもについては巡回指導で来訪する専門家のアドバイスも参考にして課題を明示している。</p> <p>個別を含む各指導計画の振り返りを細やかにを行い、次期の計画につなげている</p> <p>保育指導計画は保育の全体計画に基づき、年間、月案、週案を作成している。毎月の月案の反省欄は「配慮事項に対する自己評価と反省」や「月のテーマ」、「子どもの活動」、「個別」、「不適切保育についての確認」などの項目に分けられ、細やかに振り返りが実施されている。配慮が必要な子どもについては年度初めの巡回のアドバイスなどを基に、その子どものプロフィール表を作成して子どもの全体像を捉え、プロフィール表や子どもの姿に沿って2か月毎に支援計画を作成して支援しており、年度末には発達や保育の評価を行い翌年度につなげている。</p> <p>日々の保育を振り返り、毎日職員間で話し合っ子ども個々を把握し支援に活かしている</p> <p>日誌にはその日の活動や子どもの様子のほか、その日のねらいについて振り返り記録している。毎日のミーティングでは子どもの様子や食事、保健、保護者の事、必要な連携等について、クラスの代表者が参加して話し合われている。会議後は各クラスで情報を共有している。ケース会議は話し合う事例が生じたときに適宜実施しており、前年度は計10回程度開催されている。子どもの行動から考えられる心情を汲み取り、必要な関わりと対応を皆で検討し意見を出しあっているが、職員の対応力が高まったことにより最近では開催することも少なくなっている。</p>			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p>子どもの情報の外部への提供については個人情報保護方針に具体的に示して同意を得ている。また、小学校への情報引き継ぎについては4月に個人情報の使用承諾を得ている。そのほか、写真展で子どもの写真を掲示するときなどはその都度承諾を得ている。保育の現場では着替えやシャワー時には衝立や簾、ラップタオルの使用等で子どものプライバシーに配慮し、また、子どもが何か失敗をしてしまった時には、対応する場所や声かけなどにも注意を払って子どもの羞恥心に配慮している。</p> <p>子どもからのどんな発信も否定せず、希望が満たされるよう最大限に配慮している</p> <p>園全体で子どもを「受け入れる保育」を実践している。子どもからのどんな発信も否定せず、まずは保育者が受け入れるようにしている。また、集団に入れない、活動に気が向かないという子どもには無理強いせず、本人がやりたいことを尊重し、出来るような環境にしており、例えば、プールが好きで毎日入りたいと言う子どもには他クラスが入る時間にその子どもも一緒に入り、長時間入れるようにしている。そうすることによって水遊びに満足し自ら部屋に戻ってくる姿があるとのことであり、子どもの興味や気持ちを最大限に尊重していることが推察された。</p> <p>保護者支援に力を入れて取り組み、家庭でできないことは園で補っている</p> <p>保護者支援研修を保護者支援リーダーが受講し、園内で伝達している。保護者支援では、家庭で出来ない事は否定せず、なるべく園で補うようにしている。例えば朝ご飯を食べてこない子どもには、朝のおやつを提供して子どもが活動に意欲的に参加できるように配慮したり、厚着で過ごしている家庭の子どもには園生活の中で調整してあげるなどしている。保護者の話はとことん聞いて出来ることとできないことを伝えている。難しいことであっても一度職員間で話し合い、それでもできないことは保護者と対話を重ね理解してもらおう努めている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映している		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアル毎に時期を決めて見直し・点検し、必要に応じた更新がされている</p> <p>マニュアルは危機管理、衛生管理、食中毒、早番遅番、園外保育、業務マニュアルなどが整備されている。マニュアルの見直しについては、各クラスでマニュアル毎に年度内での定期的な確認・見直しの時期を決め、何月に何のマニュアルを確認するのかを明確にしておき、職員がマニュアルを確認する機会を設けている。最近の見直しでは感染症についてコロナ対応を追記したほか、プール・水遊びの安全ガイドラインは令和2年度の6月に制定されている。安全チェックリストも同年度6月に更新されており、更新履歴を残して管理がされている。</p> <p>手順や研修内容、保育内容については職員の意見を聞き、反映して変更・決定されている</p> <p>手順を見直す際は職員の意見を取り入れて改定している。また、保育技術向上については毎年、職員の意見を聞きテーマを検討して毎月会議の時間に研修を実施している。コロナ禍を契機に気づきも多く得られており、保育実施内容については本当に利用者本位になっているか、職員の自己満足になっていないかを軸として内容の検討がされている。前年度開始した縦割り保育の振り返りも踏まえ、職員の意見も反映して製作の進め方、食事方法、年長児の学びの時間の確保、行事への参加方法などについて内容を検討・変更しながら今年度は取り組んでいる。</p> <p>保護者目線、子ども目線で保育全般の見直しが実施されている</p> <p>特に行事については見直しをしており、例えば、綱引きの実施年齢、綱の種類など、子どもの育ちに照らして本当に必要かどうかを考えて改善を実施した。そのうえで、行事やその種目で保護者に何を伝えたいのかを検討した。持ち物などについても同様に必要性を検討したほか、保護者に提供しているドキュメンテーションの内容についても、本質的な必要性を検討しており、コロナ禍以降のサービスの見直しと検討の積み重ねが今年度の園目標である「保護者目線、子ども目線」に引き継がれ、保育全般の見直しが継続されている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもが自分で考えて行動ができるよう配慮し、個々の気持ちを尊重している</p> <p>0歳児クラスでは発達に合わせた玩具を子どもの近くに置き、保育者が見守ることで、安心して好きな遊びができる環境が作られている。また、園庭には、雲梯、総合遊具、鉄棒、タイヤなど身体を使って遊べる遊具が設置され、畑、砂場、小さな池等もある等、子ども達が色々な経験や発見ができる環境づくりがされている。そのほか、ハンモックや平均台、トランポリンなど感覚運動が常にできる環境もあり、集団から離れて気分転換をしたい子どもが個別に利用している。これらの環境の中で子ども個々の気持ちを尊重した保育が実践されている。</p> <p>幼児クラスの縦割り保育では子どもたちの優しい気持ちが育まれている</p> <p>3歳未満児クラスは緩やかな担当制で保育を行い担当者が一人ひとりの発達状況を把握し、子どもが安心して過ごせるよう保育をしている。3歳以上児クラスは縦割り保育を実施している。縦割り保育では個々に細かな保育が行いやすい環境になっており、生活の中で年上児が年下児を気遣う場面が見られている。年下児は年上児の姿を見て学んでいる。視察時も自然に年下児を労わる言葉がけや関わりが見られる等、子ども達に優しい気持ちが根付いている様子であり、異年齢保育の良さが現れている場面であった。</p> <p>子ども同士が助け合ったり、意見を伝え合って解決できるような環境がつくられている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもであっても他児と同様に生活しており、一緒に過ごす中でその子どもを理解し、助けたり気にかける姿が見られる。また、気持ちを代弁したり、察しようとする姿が見られるとのことであり、子ども同士の関係性の中で共に成長できる環境がつくられている。</p> <p>トラブルが発生した時には子どもの心や行動の背景を探るようにしている。3歳未満児の噛みつきなどのトラブルがあったときには遊びや環境を見直し、年齢の大きな子どもの場合は自分たちで思いを話し合っって子ども同士で解決できるよう促している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭とのコミュニケーションにICTを活用し、円滑な連絡や情報共有がされている</p> <p>受け入れの際には子どもの状態を口頭で確認しており、毎日の家庭での子どもの食事、睡眠、排泄の状況、体温等は保護者向けアプリを利用して確認がされている。また、毎日の子どもの様子は、アプリを用いたドキュメンテーションの配信により、個別の様子とクラスの様子が写真と文章で伝えられている。家庭からの連絡も口頭のほか、アプリから得られており、ICTが毎日のコミュニケーションと情報共有に役立てられている。</p> <p>個々の子どもや家庭の状況を踏まえて生活習慣が身につくよう援助している</p> <p>食具の使用や離乳食の提供は、家庭で使用している食具や離乳食の段階等、個々の家庭の状況を確認し、状況に合わせて進めている。排泄も同様に個々の段階と子どもの意思を尊重して進めている。</p> <p>午睡や休息については個々の状況を見ながら対応している。年長児は昼寝をなくしているが、うまくリズムが整わない子どもには昼寝を入れたり、プール遊びなど疲れが出る活動の時には全体で昼寝をしたりと、子どもの様子に合わせて休息をとるようにしている。</p> <p>生活習慣の獲得に向けたユニークな取り組みが実施されている</p> <p>動画を配信して食事や挨拶の習慣の大切さを子どもと保護者に伝えており、春には「挨拶」、夏には「朝ごはんの大切さ」をテーマにした動画を子どもと保護者に見てもらっている。そのほか、職員がキャラクターに変装して子どもたちにマナーを呼びかけるユニークな取り組みも実施している。くるんと名付けられたキャラクターが、子どもたちに「お茶碗をしっかりと持って食べているかな?」「しっかりと椅子に座れているかな?」等と声をかけると、子ども達は茶碗をしっかりと持ったりピンと背筋を伸ばしており、効果は絶大な様子であった。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちが想像を広げてのびのびと遊びを展開できる環境がつけられている</p> <p>園内研修の中では「遊びを考える」ことをテーマにして、保育者が考えた環境構成の共有や実施した成果などを伝えあっている。各部屋には保育者が考えて作った手作り玩具や、子ども達が自ら手にしたり興味を持ちそうな環境が設定されている。例えば、2歳児室のままごとコーナーには手作りオープンや棚等、保育者が作った大型玩具が置かれ、子ども達の遊びの様子に合わせ、その展開を予想し、遊びの発想を広げられる環境がつけられている。また、製作では、その年齢の子どもが楽しめる事を盛り込み、一つの大作をみんなで作る活動が行われている。</p> <p>絵本に親しみ、また、山遊びや雨の日散歩などで自然を肌で感じる事ができている</p> <p>子ども個々に月刊の絵本を購入し、子どもの人数と同じ数の絵本を1か月の間0歳児の子ども達が自由に手にできるように置いている。個々がじっくり見ることができ、また、1か月間自由に見たあとは、家庭に持ち帰り同じ絵本を継続して保護者と一緒に見られるなど子どもが絵本に親しめる環境が整えられている。</p> <p>日々の保育の中で山遊びを行い自然に触れて遊んでいる。また、雨の日にはレインコートや傘を身に付け雨の日散歩をしている。雨の音やかたつむりを見つめるなど、いつもと違う雰囲気味わい、梅雨などの季節や自然を感じる事ができている。</p> <p>仏教保育や、ヤギや烏骨鶏の動物の飼育等により思いやりの心などが育まれている</p> <p>仏教保育を基本として、思いやりや生命の尊重などを子ども達に伝えている。また、給食の配膳や飼育などで当番活動を取り入れ、自分の役割を意識し仕事を行う経験をしている。</p> <p>ヤギや烏骨鶏を飼育している。お世話をする子ども達には「自分たちが育てている」という感覚があり、自ら色々なことに気づいて出来るようになってきている。また、泣いて登園してくる子どももやぎを見ることで泣き止んだり、烏骨鶏を膝に抱くことで安定する姿が見られるとこのことであり、動物から得られる安心感やでこぼこのある子どもも安定できる環境がつけられている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事を通じて子どもたちは、話し合い、仲間と協力することを経験している</p> <p>運動会で行う「バルーン」などは春から行い「練習をする」というより、「楽しむ」ことから初めて当日を迎えている。また、敬老の日では、普段から朝や帰りに歌っている歌をおじいちゃん、おばあちゃん達に発表しているなど、行事のための練習にならないよう意識して取り組んでいる。</p> <p>発表会ではストーリーや登場人物を子ども達が話し合っ進めている。必要な小道具については子ども達も製作に参加して作り、仲間と協力して作り上げる喜びや実施後の達成感が感じられようとしている。</p> <p>子どもたちが主体的に行動し、やり遂げる体験ができる行事を実施している</p> <p>コロナ禍前はお泊り保育を行っていたが、コロナ禍以後は代替行事として「年長スペシャルデー」と銘打ち、1日、夜まで保育園で過ごす行事を実施している。年長スペシャルデーでは子どもたちが皆でキャンプファイヤーを行ったり、自分たちで夕食を作って食べたり、隣接する長円寺で座禅をするなどの貴重な経験をしている。夕食づくりでは子どもたちが話し合っ、具材を決めたり、みんなで買い物をするなど、子ども主体で様々なことを決めて実施している。前段階から子ども達はワクワクし、自分の意見を伝える姿なども見られるとのことであった。</p> <p>伝え方等を工夫して、保護者に行事の理解を深めてもらっている</p> <p>行事に向けた子ども達の活動は毎日のドキュメンテーションやクラスだよりで保護者に伝えている。また、運動会のテーマは家庭で保護者と子どもに考えてもらい、その内容を持ち寄り、最終的には各クラスで子ども達が話し合っ決めていく等、わかりやすく周知し、また、子どもと一緒に保護者を巻き込む事により、保護者が行事の内容やその過程を知り、理解を深めることができる働きかけがされている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子どもが安心して、寛げる環境設定に配慮している</p> <p>長時間保育になる子ども達がくつろげるようなるべく過ごす部屋を分け、静かな環境を作り、自分の行いたい遊びをじっくり行えるようにしている。</p> <p>また、保育者と1対1で関われる時間にして子どもの欲求をしっかり受け入れられるよう環境を作っている。</p> <p>職員のローテーションを乳児と幼児で組み合わせ、いつも一緒に過ごしている保育者がいることで安心できるよう配慮している。</p> <p>延長保育時は子どもがやりたいことができ、楽しめる時間となるよう配慮している</p> <p>延長保育では子どもが行いたいことや遊びたい遊びができるよう意識し保育を行なっている。また、保育者のお手伝いをするなど、普段の保育の中では行なわないことなどを取り入れ、特別感を感じられるよう誘ったりしている。補食は手作りのおにぎりなどを提供している。提供の際はキャラクターの顔を模してつくるなど、子どもが楽しめるよう工夫をしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>個々のペースや食事量、嗜好を尊重し、食への意欲を削がないよう留意している</p> <p>1,2歳児はまだ遊んでいた子どもは十分に遊んでから、給食を食べたい子どもは先に入室して食べるなど、個々のペースを大切にしており、視察時もとて落ち着いた食事時間となっていた。3歳以上児も個々に「いただきます」をして食べ始めている。配膳時は個々に食べられる量を自分選んで選んでいる。また、苦手な食べ物は無理せず食べられるものを食べられるだけ食べる、麺類やパンが苦手な子どもにはご飯を用意するなど、苦手な食材もそのうち食べられるようになるという大らかな考えのもと、食への意欲を削がないよう留意して提供している。</p> <p>季節を楽しみ、個々の状況にも応じて、毎日の意欲の源となる食事を提供をしている</p> <p>子どもの楽しみとなる工夫としては、七夕、節分などの行事食を提供しており、例えば秋にはおはぎを重箱に入れて提供するなど、季節毎に工夫を凝らしている。また、3月は年長児のリクエストを献立に反映し、誕生会では誕生月を迎える子どものリクエストを聞いて提供するなどしている。個々への対応としては、その日の子どもの体調やアレルギー対応のほか、ハラールなど宗教食にも対応している。また、全園児に朝おやつ(おにぎりやパン)を提供して活動に必要なエネルギーを補給することで午前中の活動に意欲的に参加できるようにしている。</p> <p>子どもたちが日常的に食材に親しむ環境づくりをして食育を推進している</p> <p>その日の給食の食材を栄養士が子ども達に紹介して食材に興味を持ってもらったり、野菜の皮むきなど食材に触れることで食べる意欲につなげている。園の畑では胡瓜やピーマン、茄子、オクラ、里芋、じゃが芋などを栽培しており、子ども達は水遣りの手伝いなどを行っている。収穫した野菜はその場で食べたり、給食に出して旬の味覚を味わっており、日常的な食育が実施されている。また、漁師さんから鯛の養殖の話や聞き、送ってもらった鯛を塩釜焼にして皆で食べたり、年長児が近隣のスーパーに買い物に行く等、多様な連携をして食育を推進している。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>身体のことや心のこと等、心身の健康に関するさまざまな指導と支援が実施されている</p> <p>毎月、看護師が身体の中の話や手洗いうがいの話、うんちの話など、絵本や紙芝居を使って保健指導を実施している。また、助産師を講師に招き、「心とからだ」をテーマとして、子ども達に性的話や人種の話、自分の命を大切にする事やプライベートゾーンの話をしてもらっている。</p> <p>子ども達の滑舌を気にかけて口の体操などを実施しているほか、目の動きが良くない子どものためにビジョントレーニングを保育の中に取り入れている。トレーニングを毎日行う事で効果を感じているとのことであり、実践発表を行い他園にも伝えている。</p> <p>子ども一人ひとりの状況に応じ、医療機関等の関係先と連携して支援をしている</p> <p>多様な子どもを受け入れ、病院やケースワーカー、子ども家庭支援センターなど、関係機関・関係者と連携して情報を共有しその子の状況に応じた支援に取り組んでいる。医療的なケアが必要な子どもの主治医とは連絡を取り合っており園での生活や活動についての確認や相談をしたり、発作を起こした時の対応や予防について確認をして子どもの健康維持に万全を期して取り組んでいる。</p> <p>保護者に向け、感染症や救急救命など、健康や保健に関する情報を積極的に伝えている</p> <p>SIDS予防では、0歳児にはセンサーも利用して午睡の見守りを行い、その取り組みを保護者に伝えて家庭でもうつぶせ寝をしないよう伝えており、予防週間には再度周知している。感染症が発生した際にはアプリで保護者に知らせ、家庭でも観察するよう呼び掛けている。保護者向けの救命救急講習や助産師による「心と身体の話」の講座を実施した。救命救急講習は参加者は少なかったが続けていく意向があり、保健・健康面に関する保護者向けの情報提供や啓蒙にも積極的に取り組んでいる。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の事情に応じて手厚い保護者支援が実施されている 保護者の事情に応じて保育を受け入れている。また、突然の延長保育の要望に対応している。お迎えについては、保護者の勤務終了後直ぐに迎えに来ることを促すのではなく、休憩を取ってから来園しても良いことにしている。また、朝ごはんを食べない家庭であれば、幼児にもおにぎりなどを提供している。登園時の服装についても、活動に適していないようであれば、園で上着を着せる等、手厚い保護者支援が実施されている。保護者の価値観や習慣などはとことん聞き、その上で、園でできることを伝えており、会話を重ねることで理解を得るようにしている。</p> <p>保護者と職員、保護者同士、地域の人たちとの交流機会が積極的に設けられている 公開保育や保育士体験、保護者会、夕涼み会、カレー大会など、様々な保護者参加行事があり、保育や子どもの姿、園の様子を知ってもらい、また、職員や他の保護者との交流ができる機会となっている。「カレー大会」は前年度3月に初めて実施した催しである。卒園児の父親にも手伝ってもらい、お迎えの時間までにカレーを作っておき、お迎えの保護者や子ども達に振舞っており、保護者以外にも地域の人や卒園児も参加可能にしていることで保護者同士だけでなく様々な人同士の交流の場になっている。</p> <p>保護者と情報や認識を共有し、子育ての過程で生じる様々な悩みや相談に対応している 公開保育は1週間の期間を設け、日ごろの保育や子どもの様子を保護者に見てもらっている。また、コロナ禍で休止していた保育士体験を今年度再開しており、子育てや保育に関する認識を共有する機会となっている。巡回相談の心理士との育児相談の機会を年4回程度設けている。また、園の看護師が子どもの健康に関する相談に対応している。個人面談は年1～2回実施しており、事前に保護者にアンケートを実施して個々の保護者の相談に応じている。また、園で設定した個人面談のほかにも常に保護者からの相談は受けられるよう相談場所を設けている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもたちは貴重な体験ができている 年長児のスペシャルデー(元々はお泊り保育)では隣接する長圓寺で座禅の体験をさせてもらっている。また、長圓寺で伝統的に催されている獅子舞とお囃子を園に招き園児たちに披露してもらっており、今後は新年会にも来園してもらおうことを検討している。そのほか、お寺の催しで行う行列に参加しないかという誘いもあり、今後参加する意向もあるなど、子どもたちが地域の行事に参加し、様々な交流ができるよう積極的に取り組んでいる。</p> <p>卒園児や地域の人達が園に集う機会を設け、積極的な交流がされている 秋の夕涼み会やカレー大会などを開催しており、園児や地域の人達、卒園児が集まり関わる機会がある。秋の夕涼み会では地域で活動するジャズバンドが演奏したり、飲み物を販売するなど、地域の人達と一緒に催しを盛り上げていく予定もあり、大変楽しみな取り組みとなっている。</p> <p>動物の飼育や地域支援の活動は、在園児と地域の人達が交流する機会になっている 日曜日のやぎの世話を地域に住んでいる人達にお願いしている。その際には園庭開放も実施し地域の子育て家庭の親子が遊びに来て実施している「子ども食堂」は園児や卒園児、地域の人達が利用しており、子ども同士が関わる場にもなっている。また、実施している「お互いさまサロン」では在園児とお年寄りが交流する機会を持っている。園として地域における役割を検討し実施している地域支援が、園児にとって地域の人たちと触れ合う機会にもなっており、子どもの生活の幅を広げる事につながっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	保育士体験やドキュメンテーションの配信など、園の保育を伝えることに力を入れている	
内容①	今年度はコロナ禍前の保育を取り戻し、保護者に保育を伝える事に力を入れている。日々の保育の様子を保護者向けアプリを活用したドキュメンテーションにより配信しているほか、公開保育や保育士体験を実施している。特に保育士体験には力を入れており、保育士体験を常に受け入れて園内の様子を知ってもらい、保護者が保育を理解し、安心して預けることができ、保育園を頼りにしてくれるよう取り組んでいる。また、お迎え時にカレーを振る舞う事を開始する等、行事の工夫や改善をしながら、保護者と一緒に子どもの成長を喜び合える機会を増やしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	職員が学び、子どもが楽しめるよう工夫して、各クラスで計画的な運営に取り組んでいる	
内容②	職員がやりたいことを確認して毎年の研修企画をしており、令和5年度は遊びをテーマにしている。職員が研修で学び、スキルを高めて保育実践に活かしている。また、毎年度当初には各クラスで目標を決めて保育を実践している。例えば、縦割りクラスの太陽組では「集めよう7つのパワー（ボール）」というテーマで、挨拶等の取り組みを1か月ずつ実施し、達成するとボールが1個もらえるようにしている。森組では「山へ散歩に行こう」、空組では「元気いっぱいモーリー（園のキャラクター）と遊ぼう」等、各クラスでアイデアを考え工夫して実施している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	日常的な里山での遊びや動物の飼育を、子どもたちの心身の育ちに繋げている	
内容③	身近にある自然環境を活かし、また、ヤギや烏骨鶏、金魚などの動物を飼育し、その環境の中で心の育ちや五感の豊かな育ちを意識して保育している。裏山での山遊びを頻繁に行い、雨の日も敢えて散歩に出かけるなどで季節を感じ、五感を育くむと共に、粗大運動に繋げている。また、日常の中で動物とのふれあいが自然に出来る環境をつくり、子どもたちが動物のお世話をすることで、思いやりの気持ちや責任感を育てることに繋げている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりを受け入れる保育が浸透し、子どもの気持ちを汲み、職員が連携して保育を実践している
	内容	子どもからのどんな発信も保育者が受け入れる「受け入れ保育」の考えが職員に浸透し、個々の子どもの気持ちを大切にされた保育が行われている。子どもを集団に入れるのではなく、一人ひとりの気持ちに寄り添い、自己決定を尊重した保育が実践されている。視察中も子どもの発信をまずは受け入れることが職員に浸透している様子であり、また、本人の気持ちを尊重するために職員間で連携し、気持ちに沿った対応がされていた。子ども、職員ともに活気があり、皆が楽しそうに活動を行っており、その中で子ども達が楽しく過ごせる工夫が随所に見られた。
2	タイトル	保護者についても「受け入れる」ことを大切に考え、細やかに個々の支援を実施している
	内容	保護者が安心できる場所を作り、育児状況を考慮し出来る限りの支援を行う事を基本として、保護者が園を頼りにしてくれるよう関わっている。相談しやすい雰囲気と環境をつくり、母親が自分の時間をつくれるよう仕事が休みの日でも保育可能としたり、お迎えは退勤後直ぐではなく、時間に余裕を持って良いことにしている。また、疲れている母親には園で実施している子ども食堂を積極的に利用するよう勧め、そのほか、朝食を食べてこない子どもへの朝食の提供や、心理士との育児相談の機会を設けている等、細やかに配慮して保護者支援を実施している。
3	タイトル	長年に亘り地域福祉に貢献し、地域社会からの信頼が得られている
	内容	実施している「子ども食堂」や「お互い様サロン」は、子どもから高齢者までの地域のネットワークとして着実に広がってきており、長年に亘り地域福祉に貢献している。また、関係機関からの要請に応じて保育困難家庭や障害児を受け入れている。園では以前から発達支援の視点を学んで保育に活かし、感覚運動を取り入れたり、保護者支援に力を入れて取り組んでおり、関係機関からの要請は、長年の保育で培ったノウハウと地域福祉に貢献する取り組みが地域において認知され、地域からの高い信頼が得られている証左であると推察された。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員に期待する姿を一層明確にしていく意向がある
	内容	職員に期待する姿として、「他を受け入れる人間力の深さ」「すべてを肯定する強さを備える」を挙げ、「受け入れる保育」や「主体的な保育」などについて会議等で話し合って保育を実践している。期待像などは明確に持っているものの、キャリアパス等の策定による明確化、見える化は今後の検討事項となっている。策定の意向があるため今後の取り組みに期待したい。
2	タイトル	園の保育を保護者に伝える現在の取り組みの中で、異年齢保育の良さをさらに発信していくことが期待される
	内容	令和4年度から異年齢保育(縦割り保育)を開始しており、今回の視察においても、年上児が年下児を労わる言葉がけや関わりが見られる等、異年齢保育の良さが現れているようであった。異年齢保育については開始して間もないため、保護者には、その良さを伝えることや、年齢児別の活動も充実させて実施していることを伝えたり、幼児クラスでも週案や月案を掲示して保育全般を周知していく等、園の保育を伝える現在の取り組みの中で、引き続き注力して紹介していくことを勧めたい。
3	タイトル	働きやすい職場環境の構築とその向上に向け継続的に取り組んでいる
	内容	令和4年度以降、業務負担軽減会議を開催して話し合い、ノンコンタクトタイムの導入や休暇制度の充実化を図るなど、就業環境の改善に取り組む成果が出ている。ただし、休暇や休憩、超過勤務については職員自己評価で意見が見られているなど、継続した改善の取り組みが必要と考えられる。何でも話し合える組織風土やチームワークの良さがある園であるため、経営陣と職員間で知恵を出し合い、引き続き就業環境の改善に努めていただきたい。